

経済調査

熊本県内企業業況判断調査

(第 116 回)

◇調査結果の概要.....	1
1. 業況判断の結果.....	2～3
(1) 業況判断.....	3
(2) 規模別・地域別の業況判断.....	3
2. 調査項目ごとの状況.....	4～6
(1) 売上・利益.....	4
(2) 仕入価格・販売価格.....	4
(3) 設備・労働力.....	5
(4) 在庫・資金繰り.....	5
◇自由回答①.....	3
◇自由回答②.....	6
◇自由回答③.....	6
◇資料編.....	7～8

2020 年 9 月

公益財団法人 地方経済総合研究所

新型コロナの影響で厳しい業況が続く

～第116回熊本県内企業業況判断調査（要約）－2020年9月調査－

【調査結果の概要】

- ▶業況DIは前回調査から2ポイント（以下、p）改善の▲50となるが、コロナ禍による業況低迷は続いている。先行きは4p悪化の▲54と、依然として厳しい見通し。
- ▶売上DIは2p減少の▲55、利益DIは1p増加の▲54と、いずれも厳しい状況が続いている。
- ▶仕入価格DIは6p上昇の+8、販売価格DIは4p上昇の▲13と、仕入上昇が小幅価格転嫁された。
- ▶設備DIは3p悪化の▲3、労働力DIは15p悪化の▲13。再び人手不足の状況に転換した。
- ▶在庫DIは11p悪化の+9、資金繰りDIは8p改善の▲4。資金繰りにやや懸念がみられる。

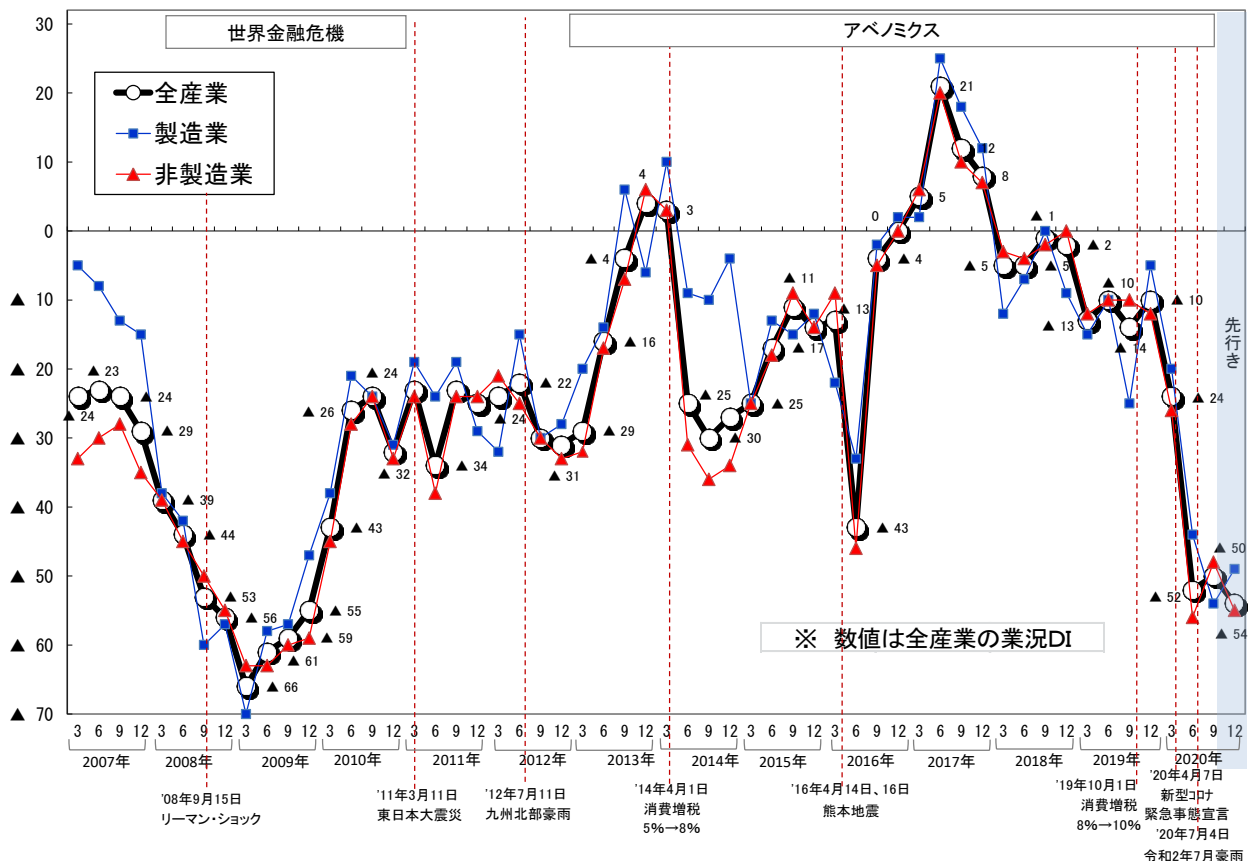
《本調査の概要》

1. 対象企業	県内主要企業 752社
2. 調査時点	2020年7月31日～8月21日
3. 対象期間	2020年7～9月期実績 2020年10～12月期見通し
4. 回答状況	回答企業 227社 回答率 30.2%

《用語》

今 回	＝2020年7～9月期
前 回	＝2020年4～6月期
先行き	＝2020年10～12月期
DI＝「プラス」回答の割合－「マイナス」回答の割合	
業況DI＝「良い」－「悪い」	
売上・利益DI＝「増加」－「減少」	
仕入価格・販売価格DI＝「上昇」－「下落」	
設備・労働力・在庫DI＝「過剰」－「不足」	
資金繰りDI＝「楽である」－「楽ではない」	

図表1 全産業 業況DI 長期推移（2007年3月調査～）



※詳細な全業種の業況DIの長期推移(2007年3月調査～)は資料編(7ページ)に掲載

1. 業況判断の結果

(1) 業況判断

新型コロナウイルスによる大幅な業況悪化となった前回調査（2020年4～6月期）から変わらず、業況は厳しい状況で推移している。全産業DIは、2p改善の▲50となり、製造業では10p悪化の▲54、非製造業は8p改善の▲48となった。先行きは全産業が4p悪化の▲54、製造業で5p改善の▲49、非製造業で7p悪化の▲55となる見通しである（図表1、2）。

➤コロナ禍により消費行動が変化

コロナ感染防止のため、対人接触を伴う消費や移動が控えられる中で、消費行動に変化が見られ、「巣ごもり消費」に関連する一部業種の需要が増加している（自由回答①^{*7}、②^{*5、*6}）。しかし、業況の改善は一部に留まり、全体では厳しい状況が継続している。またコロナへの警戒感は根強く、「Go To トラベルキャンペーン」の効果も不透明（自由回答②^{*1}）。コロナ第二波到来により再び警戒レベル引き上げもあり、収束が見通せず、この傾向は当面継続するものとみられる。

➤製造業は産業向けが低調。

一部で自動車部品向け製造業に回復の兆しがみられるが、一方でコロナの影響による海外を含む取引先工場の停止を受けて、業況回復への課題がみられる（自由回答①^{*3、*9}、②^{*2}）。また、5G関連製品を除く半導体、民間設備投資の落込みが影響する設備関連、産業用車両関連など、産業用製品向け製造業が重しとなり、製造業全体の業況DIを悪化させている（図表2、自由回答①^{*1、*2、*8}、②^{*3}）。

➤豪雨災害による影響

県南を中心に熊本県内に被害を出した豪雨災害（令和2年7月豪雨）により、人吉・球磨地域の事業者を中心に事業継続に関わる深刻な被害が発生。一方で、水害の復興に係る建設需要から、建設業をはじめ物品賃貸業、カーリース業などで特需が発生した（自由回答③）。豪雨災害は政府により激甚災害に指定され、今後復興に向けた手厚い財政支援が見込まれるため、当面は特需が続くものとみられる。

(2) 業種別の業況判断

業種別に見ると、食料品以外の製造業（18p悪化の▲53）、生産財卸売業（16p悪化の▲84）、運輸業（14p悪化の▲89）の悪化が目立つ。その他の業種も改善は小幅で、依然として業況は厳しい。

先行きでは、全ての業種が引続き厳しい業況が続く見通し。

図表2 全産業 業況DIの最近の推移

	2020年 4～6月期 (前回調査)	2020年 7～9月期 (今回調査)	2020年 10～12月期 (先行き)	
			前回調査比	今回調査比
全産業	▲52	▲50	↗	▲54 ↘
製造業	▲44	▲54	↘	▲49 ↗
食料品製造業	▲74	▲56	↗	▲63 ↘
食料品以外の製造業	▲35	▲53	↘	▲44 ↗
非製造業	▲56	▲48	↗	▲55 ↘
建設業	▲21	▲10	↗	▲27 ↘
生産財卸売業	▲68	▲84	↘	▲84 →
消費財卸売業	▲44	▲25	↗	▲58 ↘
小売業	▲59	▲42	↗	▲45 ↘
運輸業	▲75	▲89	↘	▲89 →
事業所サービス業	▲56	▲46	↗	▲49 ↘
個人サービス業	▲83	▲75	↗	▲78 ↘

※前回比、今回比

↗	改善(上昇)
→	横ばい
↘	悪化(低下)

(3) 規模別・地域別の業況判断

従業員数による規模別では、全ての規模で今回・先行きともに厳しさが続く。「9人以下」「10～19人」「300人以上」で今回は▲60以下と特に厳しい。中でも「300人以上」は先行きで更に悪化する見通し（図表3）。

地域別では、前回悪化幅が大きかった「熊本市」で小幅改善したが、実績▲51、先行き▲56と、厳しい状況は変わっていない。

「県南」においては「令和2年7月豪雨」により甚大な被害が発生した「人吉・球磨地域」「芦北地域」で被災した事業者からの回答が得られておらず、実態は数字に表れない深刻な状況であることが考えられる。

図表3 規模別・地域別業況DI

規模	前回実績	今回実績	前回比	先行き		地域	前回実績	今回実績	前回比	先行き	
					今回実績比						今回実績比
9人以下 16社	▲65	▲63	↑	▲60	↑	熊本市 148社	▲60	▲51	↑	▲56	↓
10～19人 30社	▲55	▲60	↓	▲57	↑	県北 29社	▲42	▲69	↓	▲59	↑
20～29人 26社	▲43	▲50	↓	▲50	→	県央 17社	▲28	▲53	↓	▲59	↓
30～49人 41社	▲58	▲37	↑	▲49	↓	県南 30社	▲39	▲30	↑	▲37	↓
50～299人 93社	▲46	▲48	↓	▲53	↓						
300人以上 18社	▲65	▲67	↓	▲72	↓						

【自由回答①】

DI	回答	業種	内容
業況	↘	○ 食品製造販売業	接客・サービス・観光に関わっており、コロナ禍直撃中、かつ、人出の動き動向が見当つかず。
	→	○ 半導体製造業	主要顧客（産業機器・FA）の受注回復が遅れて ^{※1} いる。一方5G関連受注に先行き明るさ ^{※2} も見えてきた。
	↘	○ 運動用品小売	弊社では年間最大の繁忙期（3～5月）コロナウイルス問題で重大な影響が出ている。
	↘	○ 旅行代理店・観光業	業種柄、コロナウイルスの影響は甚大です。今後やや改善を期待したいが厳しい状況が当面続くと想定される。
設備	↘	○ 石油化学製品製造業	コロナ禍で先行き不安もあり、設備投資や求人について当分の間中止する予定。
	→	○ 自動車関連機器製造業	4月から6月は新型コロナウイルスの世界的な急拡大で得意先の工場が停止。当社の稼働は6割程度へ落ち込んだ ^{※3} 。
	→	○ 電気機械器具卸	業界により投資意欲に差がある。民間・公共含め3月まではある程度見通しが見えるものの、4月以降はまったく見えず。
労働力	↘	○ コンクリート製造業	中途採用者が増えている。人材確保に適した時期でもあります ^{※4} 。
	→	○ 水道設備卸	業況が悪化の傾向続くと予想するも、来年に備えて人員の確保はしっかりとやっていきたい ^{※5} 。
	↘	○ 広告代理店	コロナ第2波を受け全体の景況感が悪化すると人員の余剰が出る可能性あり。案件の減少の為)
売上	↘	○ 食料品製造業	コロナによるイベント中止や各店の売上減 ^{※6} によるもの。
	↗	○ 食料品製造業	生協の組合員向けの食材を主に供給しておりコロナ感染拡大に伴い、宅配需要急増で恩恵 ^{※7} を受けている。
	↘	○ 設備部品製造業	公共事業は活発に動いているが、民間発注が低調 ^{※8} である。
	↘	○ 自動車部品製造業	売上高の減少は、コロナの影響で海外拠点がロックダウンとなり、生産が出来なくなりその生産を行った為に、生産性ダウンにより売上減少 ^{※9} となった。
	→	○ 自動車販売店	新車受注は回復傾向。7月度は受注については前年オーバー。
仕入	↗	○ 青果物卸	社会活動の自粛等により各家庭の食材料の購入が増え相場が強くなっている ^{※10} 上に、日照不足、長雨により農作物が被害を受け入荷量が減少し相場が高くなり売上増になった。
販売	→	○ 機械器具卸	売単価も上げられずまた下げられず推移するでしょう。

※ コロナ欄：内容が新型コロナウイルス感染症による直接的影響に関するものに「○」を表示しています。

2. 調査項目ごとの状況

(1) 売上・利益 ～新型コロナウイルスの影響が続く～

- 売上DIは、全産業で2p減少の▲55、製造業で12p減少の▲59、非製造業で1p増加の▲54となった。先行きは、全産業で2p減少の▲57、製造業で5p増加の▲54、非製造業で5p減少の▲59となる見通し。製造業でコロナ禍による海外からの仕入れ停止と、サプライチェーンを通じた影響による売上減少についてのコメントが見られた（自由回答①^{*9}）。個人消費に関連する業種では、依然として移動・外出自粛の影響が幅広く影を落としている（自由回答①^{*6}、②^{*4}）。また、豪雨災害の復興特需が発生した（自由回答③）。
- 利益DIは、全産業で1p減少の▲54、製造業で17p減少の▲62、非製造業で9p増加の▲51となった。先行きは、全産業で4p減少の▲58、製造業で5p増加の▲57、非製造業で8p減少の▲59となる見通し。製造業で売上の減少に伴い利益が減少し、全体でも引続き厳しい状況。

図表4 売上DI・利益DI

売上DI	前回実績	今回実績		先行き		利益DI	前回実績	今回実績		先行き	
		今回実績	前回比	今回実績	前回比			今回実績	前回比		
全産業DI	▲53	▲55	↓	▲57	↓	全産業DI	▲55	▲54	↑	▲58	↓
製造業	▲47	▲59	↓	▲54	↑	製造業	▲45	▲62	↓	▲57	↑
非製造業	▲55	▲54	↑	▲59	↓	非製造業	▲60	▲51	↑	▲59	↓

(2) 仕入価格・販売価格 ～仕入価格小幅上昇、販売価格へ転嫁～

- 仕入DIは、全産業で6p上昇の+8、製造業で4p上昇の+8、非製造業で7p上昇の+8となった。先行きは、全産業で2p低下の+6、製造業で5p上昇の+13、非製造業で4p低下の+4となる見通し。業種別では特に食料品卸売業の上昇が顕著。「巣ごもり消費」による食品相場の上昇と仕入価格上昇のコメントがみられた（自由回答①^{*10}、資料編（3））。
- 販売価格DIは、全産業で4p上昇の▲13、製造業で2p低下の▲8、非製造業で7p上昇の▲14となった。先行きは、全産業で2p低下の▲15、製造業で5p低下の▲13、非製造業で2p低下の▲16となる見通しで、やや製造業に低下がみられる。

図表5 仕入価格DI・販売価格DI

仕入価格DI	前回実績	今回実績		先行き		販売価格DI	前回実績	今回実績		先行き	
		今回実績	前回比	今回実績	前回比			今回実績	前回比		
全産業DI	2	8	↑	6	↓	全産業DI	▲17	▲13	↑	▲15	↓
製造業	4	8	↑	13	↑	製造業	▲6	▲8	↓	▲13	↓
非製造業	1	8	↑	4	↓	非製造業	▲21	▲14	↑	▲16	↓

(3) 設備・労働力 ～人手の逼迫感に変化～

- 設備DIは、全産業で3p悪化の▲3、製造業で12p悪化の▲3、非製造業で横ばいの▲3となった。先行きは、全産業で2p悪化の▲5、製造業で1p改善の▲2、非製造業で3p悪化の▲6となる見通し。製造業で、海外からの仕入れ停止によるサプライチェーンを通じた影響が、設備稼働にも影響を及ぼしている（自由回答①^{※3}）。
- 労働力DIは、全産業で15p悪化の▲13、製造業で10p悪化の+2、非製造業で15p悪化の▲18となった。先行きは、全産業で1p改善の▲12、製造業で1p改善の+3、非製造業で横ばいの▲18となる見通し。コロナ禍で薄れていた人手不足感が再び強まりつつあり、一部で先々の逼迫を見据えた人員確保の意向がみえる（自由回答①^{※4、※5}）。

図表6 設備DI・労働力DI

設備DI	前回実績	今回実績	前回比	先行き		労働力DI	前回実績	今回実績	前回比	先行き	
					今回実績比						今回実績比
全産業DI	0	▲3	↓	▲5	↓	全産業DI	2	▲13	↓	▲12	↑
製造業	9	▲3	↓	▲2	↑	製造業	12	2	↓	3	↑
非製造業	▲3	▲3	→	▲6	↓	非製造業	▲3	▲18	↓	▲18	→

(4) 在庫・資金繰り ～在庫の過剰感緩む・資金繰りの不安拭えず～

- 在庫DIは、全産業で11p悪化の+9、製造業で15p悪化の+7、非製造業で8p悪化の+11となった。先行きは、全産業で6p悪化の+3、製造業で4p悪化の+3、非製造業で8p悪化の+3となる見通し。食料品製造業を中心に、在庫過剰の解消がみられる（資料編（5））。
- 資金繰りDIは、全産業で8p改善の▲4、製造業で2p悪化の▲8、非製造業で12p改善の▲3となった。先行きは、全産業で5p悪化の▲9、製造業で2p悪化の▲10、非製造業で5p悪化の▲8となる見通し。業種毎に見ると、運輸業は悪化し、個人サービス業も依然厳しい状況。全産業の先行きが悪化しており、資金繰りにやや懸念がみられる（資料編（5））。

図表7 在庫DI・資金繰りDI

在庫DI	前回実績	今回実績	前回比	先行き		資金繰りDI	前回実績	今回実績	前回比	先行き	
					今回実績比						今回実績比
全産業DI	20	9	↓	3	↓	全産業DI	▲12	▲4	↑	▲9	↓
製造業	22	7	↓	3	↓	製造業	▲6	▲8	↓	▲10	↓
非製造業	19	11	↓	3	↓	非製造業	▲15	▲3	↑	▲8	↓

【自由回答②】

新型コロナウイルスの事業活動への影響や、もたらされる変化など

Go To トラベル		
観光土産品店		旅行団体客の集客がほぼなし。Go To キャンペーンに期待する。
ホテル旅館業		ビジネス・観光ともに来客数が減少し、低価格競争となりつつある中で、販売価格の維持に苦戦。観光に向けスタートしたGo To キャンペーンもコロナ感染拡大を考えると中止・延期してほしい。その時期ではないかと考えている。このキャンペーンで売上増は望まない。
ホテル旅館業		Go To キャンペーンでの回復は不透明^{*1} 。終了後の反動も大きくなるとされる。
旅行代理店		Go To トラベルキャンペーン開始するも、コロナ感染拡大によるキャンセルや自粛が相次ぎ先行見込み立たず。但し国や県市の経済対策事業受託で若干カバー。
消費行動変化		
自動車部品製造業		5月以降売上減少が顕著。 自動車関連は8月頃から回復しつつある^{*2} ようだが、 産業車両は回復の見込みは年内はない^{*3} 。
健康食品通信販売業		一部定期顧客の減少もあったが、反面健康意識の高まりもあり、トータルでは影響ありません。
自動車用品小売業		車の価値変化(コロナにおける車の利用価値向上)に伴い需要環境は悪くはないがコロナの再流行に伴う先行き不安がある。
巣ごもり(減収)		
食品製造業		コロナ禍による飲食店及び観光関連の業務用アイス販売の落ち込み^{*4} 。
調剤薬局		コロナの影響で今後も来局減少が見込まれる。
観光土産品店		新型コロナの影響で、集客・客単価が減少。
巣ごもり(増収)		
ホームセンター		緊急事態宣言発令があった4月以降、業績は好調を維持^{*5} している。いつかは終息し通常に戻ると思うが、現在の所まだその気配は見えない。10～12月についてもある程度業績は上振れると思う。
ディスカウントストア		コロナの影響で売上利益ともに上昇^{*6} した(昨年比)
見通し不明		
設備部品製造業		コロナ禍で先行き不安もあり、 設備投資や求人について当分の間中止^{*7} する予定。
総合建設業		建設業としては今後コロナの影響により民間投資がどのようになっていくのかに大きな影響を受けるとされる。
文具事務用品卸小売業		コロナウイルス感染の収束が見えないので先の見通しが立ちません。すべては手探りです。
影響無し		
電気工事業		業種が建設業であり新型コロナの影響は比較的小さい。売上の変動についてはコロナとの関連性は微小です。
住宅建設業		住宅産業は受注残がある為、コロナの影響が売上(完工)に出るのは約一年後(当社の場合)になります。
設計業		公共事業関連はコロナ影響は少なく現状維持。ただし先行きは影響が出るだろうと心配。

【自由回答③】

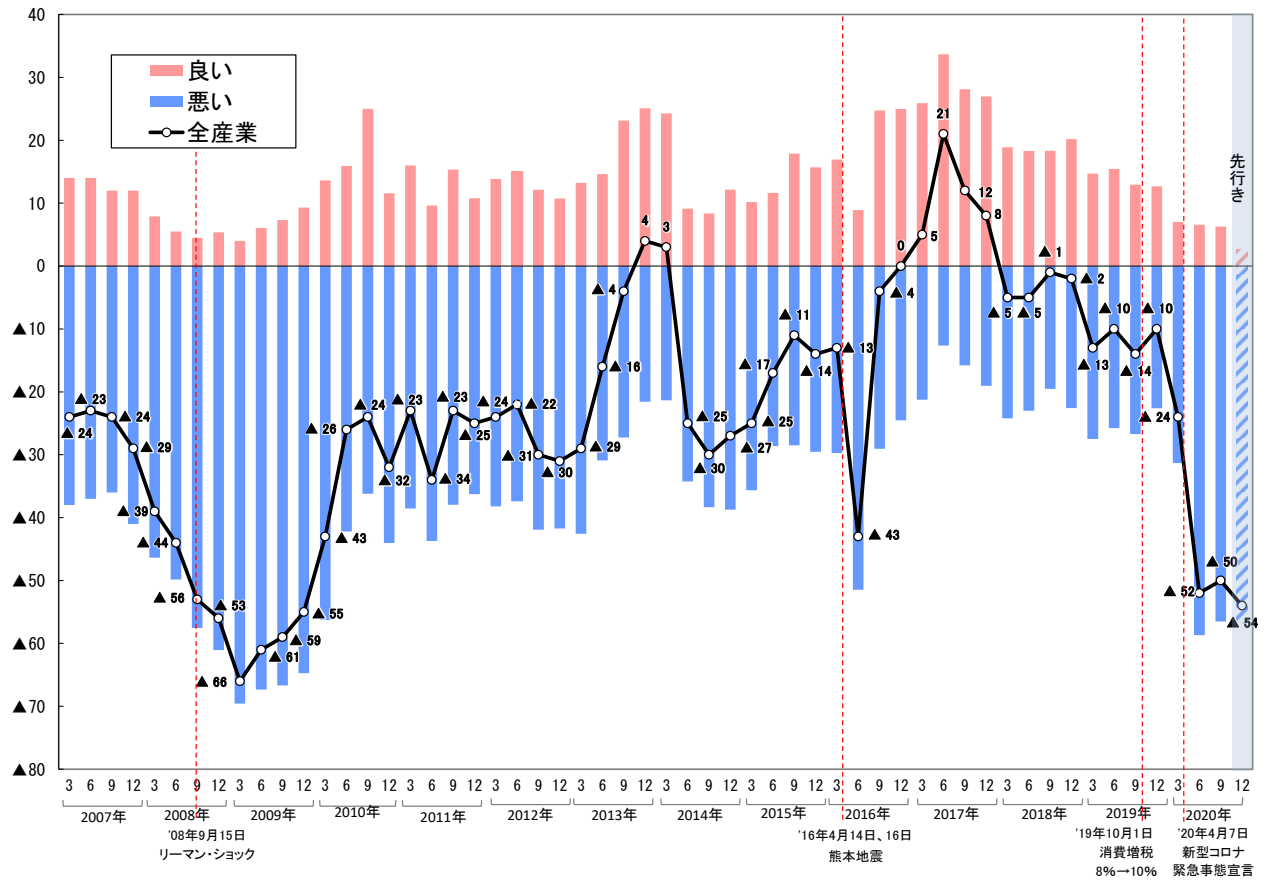
令和2年7月豪雨の業況・売上への影響

	業種	地域	内容
被害	米穀卸小売業	球磨地域	人吉・球磨水害の被害甚大で業況が悪化。
特需	建設業	天草地域	7月豪雨災害の復旧復興工事等の公共事業が今後見込まれる中、民間工事については景気回復の予兆さえ、見当たらないところで設備投資については、予断を許さないところです。
	石油小売業	球磨地域	災害時の燃料給油が増えている為(7月)その後は落ち着くと思われます(8～9月)。
	建築設計コンサルタント	熊本市圏	令和2年7月豪雨により業務が増加している。ただ通常業務はやや減少している
	カーリース業	熊本市圏	7月は人吉地区、芦北地区の水害による代車特需が発生したも8月迄多少残っている。
	物品賃貸業	菊池地域	令和2年7月豪雨の影響で10～12月は平年並みになるのではないかと予想。7月末時点では売り上げは上昇していない。

なお、各調査項目の業種別 DI については【資料編】(7～8 ページ)へ掲載しております。

【第115回熊本県内企業業況判断調査 資料編】

(1) 全産業の業況DIの長期推移 (2007年3月調査～)



(2) 売上DI・利益DI

	売上DI				利益DI					
	2020年 4～6月期 (前回調査)	2020年 7～9月期 (今回調査)	前回調査比	2020年 10～12月期 (先行き)	今回調査比	2020年 4～6月期 (前回調査)	2020年 7～9月期 (今回調査)	前回調査比	2020年 10～12月期 (先行き)	今回調査比
全産業	▲53	▲55	↓	▲57	↓	▲55	▲54	↓	▲58	↓
製造業	▲47	▲59	↓	▲54	↑	▲45	▲62	↓	▲57	↑
食料品製造業	▲63	▲63	→	▲63	→	▲74	▲69	↑	▲81	↓
食料品以外の製造業	▲41	▲58	↓	▲51	↑	▲36	▲60	↓	▲49	↑
非製造業	▲55	▲54	↑	▲59	↓	▲60	▲51	↑	▲59	↓
建設業	▲32	▲37	↓	▲40	↓	▲36	▲30	↑	▲50	↓
生産財卸売業	▲63	▲84	↓	▲84	→	▲68	▲79	↓	▲79	→
消費財卸売業	▲44	▲17	↑	▲42	↓	▲44	▲25	↑	▲42	↓
小売業	▲63	▲42	↑	▲52	↓	▲66	▲39	↑	▲48	↓
運輸業	▲67	▲89	↓	▲67	↑	▲75	▲89	↓	▲89	→
事業所サービス業	▲46	▲54	↓	▲54	→	▲51	▲43	↑	▲43	→
個人サービス業	▲83	▲71	↑	▲75	↓	▲91	▲83	↑	▲88	↓

(3) 仕入価格DI・販売価格DI

	仕入価格DI					販売価格DI				
	2020年 4～6月期 (前回調査)	2020年 7～9月期 (今回調査)	前回調査比	2020年 10～12月期 (先行き)	今回調査比	2020年 4～6月期 (前回調査)	2020年 7～9月期 (今回調査)	前回調査比	2020年 10～12月期 (先行き)	今回調査比
全産業	2	8	↑	6	↓	▲17	▲13	↑	▲15	↓
製造業	4	8	↑	13	↑	▲6	▲8	↓	▲13	↓
食料品製造業	5	19	↑	19	→	▲5	▲25	↓	▲13	↑
食料品以外の製造業	3	4	↑	11	↑	▲7	▲2	↑	▲11	↓
非製造業	1	8	↑	4	↓	▲21	▲14	↑	▲16	↓
建設業	4	10	↑	13	↑	▲14	▲20	↓	▲13	↑
生産財卸売業	5	5	→	5	→	▲26	▲21	↑	▲26	↓
消費財卸売業	▲6	50	↑	25	↓	▲19	33	↑	8	↓
小売業	7	7	→	▲3	↓	▲20	▲13	↑	▲13	→
運輸業	▲18	33	↑	33	→	▲10	▲11	↓	▲11	→
事業所サービス業	3	▲6	↓	▲6	→	▲18	▲6	↑	▲6	→
個人サービス業	▲5	▲4	↑	▲9	↓	▲41	▲43	↓	▲48	↓

(4) 設備DI・労働力DI

	設備DI					労働力DI				
	2020年 4～6月期 (前回調査)	2020年 7～9月期 (今回調査)	前回調査比	2020年 10～12月期 (先行き)	今回調査比	2020年 4～6月期 (前回調査)	2020年 7～9月期 (今回調査)	前回調査比	2020年 10～12月期 (先行き)	今回調査比
全産業	0	▲3	↓	▲5	↓	2	▲13	↓	▲12	↑
製造業	9	▲3	↓	▲2	↑	12	2	↓	3	↑
食料品製造業	26	▲6	↓	▲6	→	37	▲19	↓	▲7	↑
食料品以外の製造業	3	▲2	↓	0	↑	3	9	↑	7	↓
非製造業	▲3	▲3	→	▲6	↓	▲3	▲18	↓	▲18	→
建設業	▲7	10	↑	7	↓	▲21	▲30	↓	▲20	↑
生産財卸売業	▲5	5	↑	0	↓	5	0	↓	▲5	↓
消費財卸売業	0	▲8	↓	0	↑	0	▲25	↓	▲17	↑
小売業	▲2	▲10	↓	▲6	↑	2	▲29	↓	▲32	↓
運輸業	18	▲11	↓	▲11	→	0	▲56	↓	▲33	↑
事業所サービス業	▲8	▲6	↑	▲19	↓	▲16	▲23	↓	▲26	↓
個人サービス業	▲5	▲10	↓	▲10	→	23	21	↓	13	↓

(5) 在庫DI・資金繰りDI

	在庫DI					資金繰りDI				
	2020年 4～6月期 (前回調査)	2020年 7～9月期 (今回調査)	前回調査比	2020年 10～12月期 (先行き)	今回調査比	2020年 4～6月期 (前回調査)	2020年 7～9月期 (今回調査)	前回調査比	2020年 10～12月期 (先行き)	今回調査比
全産業	20	9	↓	3	↓	▲12	▲4	↑	▲9	↓
製造業	22	7	↓	3	↓	▲6	▲8	↓	▲10	↓
食料品製造業	47	13	↓	6	↓	▲16	▲13	↑	▲19	↓
食料品以外の製造業	13	4	↓	2	↓	▲3	▲7	↓	▲7	→
非製造業	19	11	↓	3	↓	▲15	▲3	↑	▲8	↓
建設業	—	—	—	—	—	18	10	↓	0	↓
生産財卸売業	21	21	→	11	↓	5	5	→	5	→
消費財卸売業	19	8	↓	0	↓	▲6	8	↑	8	→
小売業	18	32	↑	19	↓	▲29	7	↑	0	↓
運輸業	—	—	—	—	—	▲33	▲44	↓	▲33	↑
事業所サービス業	—	—	—	—	—	▲3	6	↑	▲3	↓
個人サービス業	—	—	—	—	—	▲61	▲38	↑	▲42	↓

※在庫DIの“—”は該当なしの業種